

## 小中学校規模配置適正化に係る地区説明会の実施結果

(実施期間) 平成26年12月10日(水)から平成26年12月22日(月)  
午後7時～

(実施箇所) 適正化対象の小学校8箇所(小学校体育館または多目的室で実施)

### (説明内容)

#### ①学校規模配置適正化の背景

少子化の影響により、児童・生徒数の減少が続いており、学校が小規模化しているほか、学校施設の耐震性や老朽化、いじめ、不登校等の課題がある。

本市では、より良い教育環境の整備と教育の質の充実を図るため、平成22年10月に学校規模配置適正化検討委員会を設置し、検討を行ってきた。

今回、適正化検討委員会からの答申を指針としながら、小中学校規模配置適正化実施計画(案)を策定した。

#### ②小中学校施設整備計画

整備計画期間は平成27年度～平成34年度の8か年となっている。

平成27年度に旧小川高校を県から取得、中学校用に改修し平成28年度中に小川南中学校を移転する。

3中学校区の統合小学校については、新設統合とし、学校施設は新たに建設する。平成27年度から小川・橘統合小学校の設計に入るほか、玉里地区の小中一貫校の建設に向けた準備を開始し、順次整備を行っていく。

#### ③小学校統合の進め方

小学校の統合にあたっては、保護者・教職員・地域の代表等で構成する(仮称)小学校統合準備委員会を設置し、校名の選定や、スクールバス運行基準、教育課程、施設整備、学校跡地利用、その他統合に必要な事項について、検討しながら決定していく。

#### ④新しい学校づくり

現在、実施している小中連携のさらに進んだ形として、小中一貫教育を推進していく。一貫教育のタイプには、連携型・併設型・一体型があり、中学校区ごとに地域の実情に合わせた一貫教育の実施を目指す。

### (参加者数および質問・意見数)

開催日	学校区	参加者数	質問・意見数	説明内容別の質問・意見数				
				①	②	③	④	その他
12月10日(水)	玉里北小学校	10人	11	3	1	5	1	1
12月11日(木)	玉里東小学校	19人	7	2	1	0	1	3
12月15日(月)	玉里小学校	13人	4	0	1	0	1	2
12月16日(火)	野田小学校	10人	8	0	4	1	3	0
12月17日(水)	下吉影小学校	20人	23	7	6	5	0	5
12月18日(木)	上吉影小学校	9人	11	0	4	5	2	0
12月19日(金)	橘小学校	32人	20	8	4	3	1	4
12月22日(月)	小川小学校	14人	3	0	0	1	0	2
	合計	127人	87	20	21	20	9	17

## ①学校規模配置適正化の背景についての主な質問・意見

**Q** 適正化は、文科省から指示があって進めているのか、小美玉市が独自の判断で進めていこうとしているのか。旗を振っているのは誰なのか。

**A** 平成20年、茨城県が適正化の方針を出し、それに基づいて各市町村が動き始めた。現在、各市町村で少子化が進行し、子どもの数が減っている。子ども達にとって、より良い環境を作っていくということで進めている。本市も平成22年度より、その動きを始めた。

**Q** 今の説明だと、学校が統合し、進んでいくような説明。地域の人は、全く分かっていない。区長からの説明は無い。他の地区でもないと思う。なぜなのか。

**A** 平成22年に学校規模配置適正化検討委員会を設置し、適正化の検討を諮問した。平成22年から学校の適正規模配置の話し合いが続けられ、平成24年6月に「小美玉市小中学校規模配置適正化基本方針」を策定し、その説明会を平成24年11月に開催した。橘小学校区では、11月22日に橘小学校体育館で実施し、33名が参加した。その後、平成25年3月に「小美玉市小中学校適正配置の具体的方策」の中間答申がされ、平成25年12月14日に、橘小学校区の地域協議会を開催した。そこで、今後の協議の進め方等について検討し、平成26年2月には、話し合いの結果等を「学校適正化だより」として、橘小学校区、小川小学校区版として、全戸に配付している。その中で、小学校再編案の意向調査の集計結果、地域協議会の協議内容を掲載した。意向調査については、特に橘小学校区の児童の保護者、未就学児の保護者にアンケートを行い、その結果が地域協議会から適正化検討委員会へ報告された。そして、橘小・小川小の統合はやむを得ないという答申を受け、実施計画（案）を策定したものである。

### 【意見】

学区の中でアンケートを採った経過がある。それを含めて今日まで進められてきたという経過があるはず。一般の方にも公表していたはずだが、見ていただいているのが残念。今出ている話は、今年のこれからがどうするという時に出していただければという気がしないでもない。少子化の中で避けては通れない、長いスパンで考えなくてはならない。現在の適正化については納得していただいて、その後どうするか。立て続けに学校教育に相当の金額が投入される計画になっているが、これだけの計画を予定通りに進めるための財源は心配なのか。また、跡地をどうするのか。跡地利用については、同時並行的に進めるべき。折角進められてきた計画なので、1日も早く子ども達の教育が良くなれば良いと思う。

**Q** 平成30年以降は、複式学級になると説明があった。実際には、どのようになるのか。また、北中と南中が再統合ということになることはないのか。

**A** 統合がスタートするまでの間、国の基準で複式学級になった場合は、市の財源を教員配置に充てて、それぞれの学年の授業が実施できるように対応していく。現在、玉里東小学校が複式相当だが、教員を1名充てている状況。来年度もその予定となっている。

現在、小川南中と小川北中の統合は、想定していない。

### 【意見】

私は、地域協議会の委員として協議に参加した。先ほど質問された方のような意見は、十分に踏まえた案になっている。委員の皆さんも同じような考えを持っていた。そういった議論を揉んだ結果、このような案になっている。ここまで進んできたということで、今後検討すること等を考えていただいた方が良くと思う。

また、費用として、教育費が一番かかり、若い皆さんが子どもを産まないということだと思う。教育にかかる予算を増やしていただきたい。これが少子化の一番の対策だと思う。北中学校区の代表会議において、スクールバスを無料で運行することが統合の条件だということを主張した。それが、本日の資料にも明記されている。ぜひ、お願いしたい。

### ②小中学校施設整備計画についての主な質問・意見

#### Q 統合小学校の建設費用はいくらか。

A 児童数から校舎の必要面積を算出し、それに㎡単価を乗じ、概算費用を算出している。小川・橘の統合小学校は、1,378,000千円。玉里地区の小中一貫校は、2,002,000千円。野田・上吉影・下吉影の統合小学校は、体育館の建設も見込んでおり、1,467,000千円。これは、あくまで概算である。

#### Q 北中学校区は、他の地区と比べ、話が進むのが若干遅いが、早まることはあるのか。

また、この計画が進んだ場合、現在の野田小から北中までの道路は、交通量が非常に増えていて、歩道が片側だけの場所もあり、非常に危険な状態である。通学の安全を確保するような計画もされていくのか。

A 3地区の事業を同時に出来るかとなると、財政的にも厳しい。1つの学校をつくるために、約1,500,000千円から2,000,000千円の予算が必要になる。同時進行していくためには、大変な負担なので、計画的に進めることになる。計画を早めることは、難しいかと思う。事業がスムーズに進み、財源も確保できる状況であれば、もちろん一刻も早く整備を進めたい。

通学の安全については、統合小学校を建設する場合、周辺の通学環境の点検等を統合準備委員会で行い、開校前に危険がないよう市としても、より安全な通学ができるように考えていく。

#### Q 現在の下吉影小学校に統合小学校を作った場合と北中周辺に作った場合の財政的な問題は、どのくらい違うのか。今日、資料がないのであれば、後日で良いので文書で教えてほしい。

A 試算は行っていない。試算し、後日お教えする。

### 【意見】

校舎の建設場所は、小中の間になるべく道路を挟まない場所にし、グラウンドを共有できるようにつくっていただきたい。道路を挟むと、事故が起きる可能性もある。

### ③小学校統合の進め方についての主な質問・意見

- Q** 自宅から玉里北小学校までの距離は3kmとなっている。玉里小学校までは5kmとなる。どのくらいの距離からスクールバスが出るのか。
- A** 現在、国における遠距離通学の基準があり、4km以上となっている。小美玉市においても、4kmを一つの目安としていきたいとは考えている。しかし、現在の市内徒歩通学における距離や統合後に距離が延長されることを考えた場合、目安だけで決めるのではなく、統合準備委員会で協議した上で、スクールバスを運行したいと考えている。
- Q** 統合準備委員会の総務部会において、制服の有無、ジャージの選定とある。入学後に統合小となり、ジャージが変更になった場合、問題はないのか。また、入学後にジャージを統一となった場合は、負担金等が出るのか。
- A** 体操服については、他の地区でも質問いただいた。もし、新しい学校ができるとすれば、ジャージも開校に合わせて、買い替えの出ないようにしていく。保護者の方々の合意を得られれば、平成31年度に開校するという想定だとすると、その前にそれぞれの小学校で着用し始めるといったこともある。そういった様々な意見をいただきながら、計画を立てられると思う。それを含めて、各部会の中で検討していきたい。極力、保護者の負担を増やさないようにしていきたいと考えている。
- Q** 行方市話を聞くと、スクールバスを走らせると、1台で20,000千円から30,000千円もの費用がかかると聞く。それが10台もあつたら、200,000千円から300,000千円もかかる。市の財政に多大な負担となる。そういったことまで検討していかないといけない。
- A** 行方市では、スクールバスの運行で年間200,000千円という話を聞いている。行方市では、殆どの児童がスクールバスを利用しているという状況であり、大型バスで運行している。これをそのまま小美玉市で行うわけではない。開校までの4年の間に、統合準備委員会で小美玉市ではどのように運行していくかということを決めていきたい。また、スクールバス運行費用の全額を市負担にするのか、利用する保護者にいくらかは負担いただくのかといったことも、検討する項目として考えている。スクールバスを運行することになれば、多大な負担にはなるかと思うが、子ども達のためなので、運行しないということはない。
- Q** スクールバスの停留所は、地域にとってベストな場所を考えていただきたい。皆さんの意見を十分に取り入れていただきたい。
- A** スクールバスの停留所については、学年が変わると、対象となる家庭も変わってくるということもある。地域の方の意見を聞き、停留所を設定し、年度毎に柔軟に考える方向でいる。組織が立ち上がった中で、地域の方々の意見を聞いていきたいと思う。

**【意見】**

スクールバスは、できれば無償でお願いしたい。

**④新しい学校づくりについての主な質問・意見**

**Q** 小中一貫のタイプにある連携型、併設型、一体型のメリット・デメリットはどのようなものか。また、一体型を選択した理由をお願いしたい。

**A** メリットとしては、教員の専門性を生かした授業を行えるため、学力が向上する点がある。また、小学校から中学校へ進学し、学校が変わるということによって、不登校が増えるということが全国的に示されている。いわゆる中一ギャップが解消され、不登校が減少する。小中学生が同じ校舎で生活し、中学生が小さい子達と触れ合うことによって、中学生の優しさが醸成されると言われている。

デメリットとしては、小中一貫、小中連携を推進する上で、教員が打ち合わせ等に時間をかける必要がある。

中学校の適正規模は1学年3学級以上という説明をしたが、玉里地区は、将来的にも1学年2学級という想定。そういった地域性も考慮し、一体型のスタイルをプランニングした。

一体型であれば、子ども達も教員も同じ学び舎の中にいるので、連携がしやすい形。併設型や連携型となると、そういったところがデメリットとしてある。特に玉里地区については、プラス面を全面に押し出した教育ができると想定している。

**Q** 小中一貫となった場合、小学校・中学校の両方の免許を持った教員を確保していただきたい。

**A** 平成12年以前は、県から両方の免許を取るように指導があったため、両方持っている教員も多い。平成12年からの人事は、小学校と中学校で別に採用している。小学校で採用した教員は、小学校を中心に仕事をするようにはなっているが、茨城県では、小中乗り入れが非常に多く行われている。若い教員には、片方の免許しか持っていない者も多いので、市内の校長会において、なるべく両方とるようという指導が教育長から入っている。正式に小中一貫校がスタートした場合には、両方の免許を持っている教員を採用し、上手な小中乗り入れを行いたい。

**【意見】**

一貫教育のモデルケースでのメリット・デメリットを全国的に収集し、地域に当てはめ、適したものをたくさん集めてほしい。周辺施設の誘致、設置等も考慮しつつ、大きなビジョンをもって考えると、全国的なモデルケースになるかもしれない。少なくとも地域の中で、現状の形の小学校より新しい小学校ができて良かったと思われるようにしたい。誰が見ても、小美玉市の憲章と小中一貫での学校が通じるようなものを作ってもらいたい。

**【意見】**

小中一貫がスタートしていて、2、3年経っている場所があれば、是非、父兄の方達などの生の声を交換できる場があれば良いかと思う。

その他、主な質問・意見

**Q** 下吉影小学校は、建設してから10年程度。取り壊しになる場合、防衛省、文科省の補助金の残額はいつまであるのか。いくらになるのか。

**A** 建設後10年ほどで学校を廃止する場合、通常であれば、文科省補助金や防衛省補助金の返還が発生する。しかし、学校統合に関して、補助金の返還が発生するのか文科省に問い合わせを行った経緯がある。耐震のために統合し、新しい学校をつくるということであれば、文科省補助金の返還は求めないという話だった。

**【意見】**

今後も説明会を出来る限り、開いてほしい。そうすることによって、安心できるような学校づくりをしてもらいたい。

**【意見】**

統合してしまうと、良いか悪いかを誰も総括をしない。統合してから1、2年経過した時に、どのような良い学校になったかを必ず総括し、父兄に話せる機会を設けると良いかと思う。絶対に行ってほしい。

**【意見】**

下吉影小学校は、まだ新しい校舎。これから跡地利用を検討していくとあったが、並行して行った方が良くと思う。

また、説明会の参加人数も少ない。更に何回か説明会を開催していただきたい。

小中一貫教育ということを検討しているが、小学校の児童数がどんどん減少している。約10年の計画だが、その間に更に少なくなる。1つの学校がなくなりかねないので、十分検討していただきたい。

**【意見】**

学校が新しくなり、郷土を愛する教育を行うチャンス。ハード面だけではなく、ソフト面で市独自の教育を行っていければ、人口流出を防ぐ一つのキーワードになるのではないかと思う。そういったことを重点的に行っていければ良いかと思う。